



八巻歯科医院院長(神奈川県)
山口里恵 ①



「ばあちゃん、ばあちゃん!」。毎朝の起床の合図である。焦つて暖かい布団を抜け出し、着替えもそこそこに孫の部屋に駆けつける。

ある日突然、娘が「歯科衛生士になるべく発言」をした」と、娘夫婦との同居が実現した。あれ

からもう3年。娘は今年晴れて歯科衛生士になる予定で、4月からは別居することも決定。孫と朝ごはんを食べながら、この激動の3年を思い起します。

朝、孫を起こして着替えて、飯を済ませ、保育園に送り、その足で仕事に向かう。仕事が終わる

ときも大変だったあの日。日頃から「いざとなつた時のため」が口癖で、「いざという時にいつよ」と娘に言われ続けてきた私にとって、神奈川県歯科医師会救急医療委員会に属している以上、それはまさにいざという時だつたのだ。

3歳の孫のひと言

と孫を迎えて行き、家に帰つて食作り、洗濯、掃除の全てをこなしている。「この年でよくがんばっている」と自分を褒めなければやつていられない。

いろいろあつた中でも、忘れられない出来事は、なんといつても東日本大震災だ。地がねじれるように動き、立つてい

だ」と言うと、小さな孫は「ばあちゃん、行ってあげて。」で決めなきや女がするー」と、時つていつよ」と娘に言われ続けてきた私にとって、神奈川県歯科医師会救急医療委員会に属している以上、それはまさにいざという時だつたのだ。

背中を押された気分で全国唯一の女性開業医として7月15日から20日まで宮城に出動した。次女を幼くして亡くしている私にとって、肉親を亡くしている私は痛いほどわかる。少しでも多くの方々の身元が分かり、ご家族の元に戻れるように、歯牙データをとった。生前死後のデンタルチャート照合も行った。

天変地異を避けることはできず、7月に出勤許可が出た。まだ3歳になつたばかりの孫に「亡くなつた人のお口の中、調べに行こうかなと悩んでいた

だ」と、小さな孫は「ばあちゃん、行ってあげて。」で決めなきや女がするー」と、時つていつよ」と娘に言われ続けてきた私にとって、神奈川県歯科医師会救急医療委員会に属している以上、それはまさにいざという時だつたのだ。